

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和4年2月)

### ～まん防の延長とロシアのウクライナ侵攻で、現状判断は続落～

- 景気ウォッチャー調査・2月調査の近畿地域の結果は、現状判断が39.3と前月比で2か月連続の低下となった。一方、先行き判断は44.2と5か月ぶりの上昇となっている。
- 足元の景気については、新型コロナの感染継続に伴う、まん延防止等重点措置の延長により、飲食や宿泊などの業種で悪影響が続いている。都市部を中心とした人流の減少も続き、百貨店やコンビニなどでも影響が継続中である。それに加え、かねてからの原材料価格の上昇や半導体不足の影響も続いており、生産の減少や納期の遅延、収益の悪化といった動きにつながっている。
- 一方、2月下旬にロシアがウクライナに侵攻し、世界情勢が大きく変化しつつある。2月末時点でまだ具体的な影響は広がっていないものの、小売関連の業種を中心に、様々な業界から不安の声が上がっている。
- 先行きについては、まん防の解除に対する期待は高いものの、現時点でその見通しは立っていない。ただし、3回目のワクチン接種、経口薬の効果に対する期待もあり、百貨店や旅行関連を中心に、解除後は一定の回復を見込む声が多い。その一方、各種の原材料コストの上昇が続く中、価格転嫁の見通しは依然として厳しく、先行きを不安視する声はまだまだ多い。
- さらに、ロシアのウクライナ侵攻によって、物価の上昇がエスカレートすることへの警戒や、サプライチェーン、投資環境といった企業の経営環境への幅広い影響を懸念する声は多く、当面の最大のリスクとして認識されている。

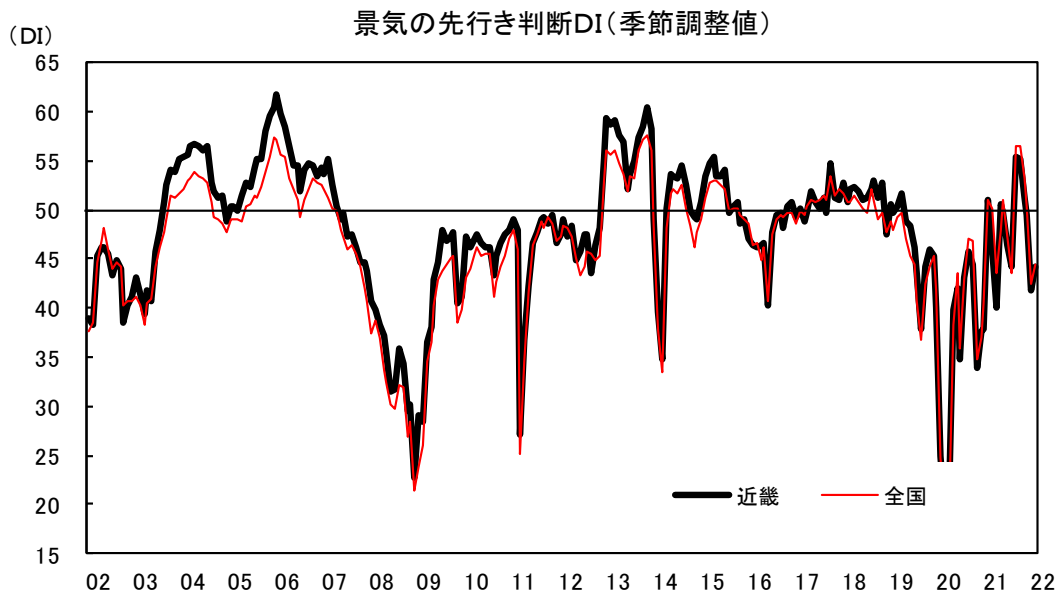
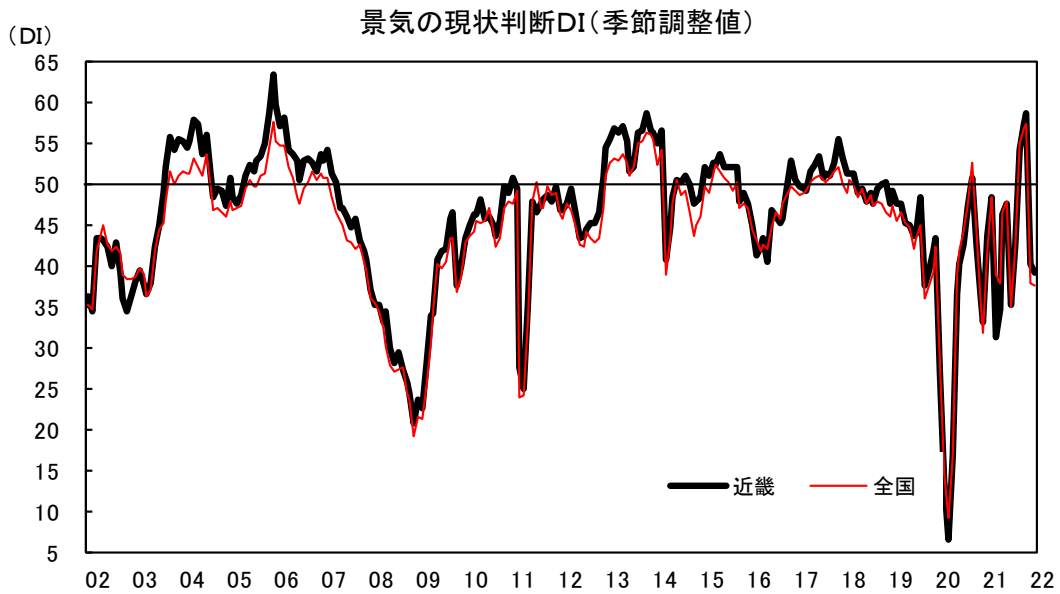
#### 「ウクライナ危機」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	く や な や る 良	その他レジャー施設 〔複合商業施設〕(職員)	・新型コロナウィルスの感染第5波の際、感染が落ち着いた段階で経済が一斉に動き出した経験から、同じような回復を期待している。ただし、ウクライナ問題の早期解決が必須である。
	変 わ ら な い	一般小売店〔時計〕 (経営者)	・コロナ禍が落ち着くかどうかが見通せないなか、ロシアによるウクライナ侵攻という、世界的に悪いニュースが飛び込んできた。今の時代では考えられないような無謀な行為であり、今後の経済や社会がどう変わるかは予測ができない。買物をして楽しむような気持ちになることが、今の状態では考えられず、先行きの景気が良くなるとは思えない。
		一般小売店〔野菜〕 (店長)	・ロシアがウクライナに侵攻し、原油高などにつながっている。物価上昇率もかなり上がってくるなど、厳しい状況になると予想される。
		スーパー (店長)	・まだ今の状況が続くそうであり、大きな変化はないと予想される。ただし、広い視点ではロシアのウクライナ侵攻による影響次第で、景気変動する可能性もある。
		乗用車販売店(営業担当)	・ロシアのウクライナ侵攻もあり、更に供給が遅れる可能性も考えられるため、良くなるイメージはない。
		旅行代理店(支店長)	・まん延防止等重点措置などは解除されると予想されるが、ウクライナ情勢などの新たな火種が発生し、客の旅行マインド、特に海外旅行の動きに水を差している。状況が早期に改善されるとは予想できず、全体としては今と変わらない状況となる。
		タクシー運転手	・この春からの日用品の値上がりや、ウクライナ情勢の影響も出てくるが、全体的には今の状態が続くと予想される。

家計動向関連	変わらない	その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・以前ほど新型コロナウイルスへの警戒感は強くなく、人の動きも活発化しつつある。ただし、ロシアのウクライナ侵攻による原油高や原材料の値上げで、物価の上昇が進むことが懸念される。
		やや悪くなる	百貨店(売場主任)
	百貨店(マネージャー)		・3回目のワクチン接種の広がりなどで、コロナ禍については落ち着いてくるものの、ウクライナ情勢などの不確定要素もあり、景気の好材料は少ない。
	百貨店(販促担当)		・コロナ禍に、ウクライナ情勢の悪化まで加わり、先行きが見通せない状況である。極端な原油高に代表される物価の変化が、消費を直撃しそうだ。どちらも営業努力では克服できないものであり、商品の生産や仕入れのコントロールも非常に難しい。原油相場が高止まりし、人の動きが近場にシフトするなか、情勢に応じた機敏な判断や対応がより必要となる。
	スーパー(経営者)		・新型コロナウイルスの感染は少しずつ落ち着いているが、ウクライナ情勢という新たな問題が発生している。今春には各種食品の値上げが予定されているが、原材料不足によって更に拡大しそうだ。先行きが不透明ななか、所得がどこまで伸びるのかも分からない。商品価格への転嫁が予定どおり進まなければ、利益の圧迫につながる懸念が大きい。
	乗用車販売店(販売担当)		・新型コロナウイルスオミクロン株に加えて、ロシアのウクライナ侵攻、燃料価格の高騰など、負の要素が多過ぎる。
	通信会社(経営者)		・ウクライナ情勢の影響で、仕入価格が上昇する。
	テーマパーク(職員)		・ロシアによるウクライナ侵攻を、他人事のようにみている政府の対応に対し、希望がもてない。日本に対して圧力を強める中国が、今の状況をどのようにみているかと考えると、寒気がする。
	悪くなる	一般小売店[衣服] (経営者)	・コロナ禍の影響も予想されるが、今起きているロシアのウクライナ侵攻による影響で、日本でも物価が高騰するおそれがある。その結果、これまで以上に厳しい状態になることは避けられず、これからしばらくは景気が上向くとは思えない。
		スーパー(店員)	・ウクライナ情勢の悪化のため、景気は悪くなる。
		衣料品専門店(経営者)	・新型コロナウイルスの治療薬が出そろってきたため、ある程度のめどが立ってきた。ただし、ロシアのウクライナ侵攻により先が見通せなくなっている。
		家電量販店(企画担当)	・ロシアとウクライナ情勢の行方と、まん延防止等重点措置の延長により、しばらくは株価の推移や消費への大きな影響が続く予想される。
		住関連専門店(店長)	・輸入販売業では、海外からの輸送費が今春から元々値上げとなる予定であったが、ウクライナ情勢の影響で、更なる原価の高騰や輸送網の乱れといった、懸念材料やリスクが一気に増えている。
		その他専門店[ガソリンスタンド](経理担当)	・新型コロナウイルスの感染第7波の有無や、ウクライナ情勢の今後の推移により、景気は大きく変わってくるが、良くなる材料は少ないため、2~3か月先の景気は今よりも悪くなる。
通信会社(企画担当)		・ウクライナ情勢の影響で世界的な不安が高まり、金融市場や株価に影響を受ける。また、原油などのエネルギー関連も影響を受けるため、輸送コストが上がり、更に物価の上昇が進むと予想される。コロナ禍の収束後には金融が引締められるとしても、インフレが加速するという不安感が大きくなっている。	
住宅販売会社(経営者)		・ウクライナ問題が解決するまでは、状況が不安定であり、景気の後退につながる。	
その他住宅投資の動向を把握できる者[不動産仲介](経営者)		・ロシアの軍事行動による影響が出る。	
企業動向関連	変わらない	窯業・土石製品製造業 (管理担当)	・新型コロナウイルスの新たな変異株が次々と発生し、なかなか収束に向かわないが、今後はワクチン接種や飲み薬の承認などが進む。欧米では経済活動を回すことに注力し始めており、我が国もその方針で進むと予想される。ただし、ロシアのウクライナ侵攻という懸念材料が発生し、一時的な原油価格の高騰が避けられない。燃料費の増加は避けられないが、全体として大きな変化はないと予想している。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・売上は低迷したままであり、ここ数か月で客の投資意欲が改善するとは思えない。さらに、ウクライナ危機が欧州経済にダメージを与えることで、国内の企業も投資を控えることが予想される。

企業動向関連	変わらない	建設業（経営者）	・ウクライナの件で経済制裁が始まり、原油や天然ガス、半導体などの価格が高騰し、供給不足も予想される。建設資材の高騰や品不足も、厳しい状況になると心配している。
		司法書士	・コロナ禍に加えて、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、状況が一段と厳しくなっている。現時点では良くなる要素が見当たらない。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・新型コロナウイルスは変異を繰り返すことが予想され、ウィズコロナで外出を控える生活は避けられない。また、ロシアのウクライナ侵攻による世界経済への影響は、エネルギー関連を中心に、生活面にも出てくる。
	やや悪くなる	プラスチック製品製造業（経営者）	・ウクライナ問題もあり、経済の減速を感じる。どうしようもなく大きな力が働いており、軌道修正には少し時間が掛かる。
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染がもう少し落ち着かなければ、営業活動も制限される。今後、ウクライナ情勢の推移次第では、更なる物価の上昇も考えられる。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・ようやく納期なども戻りつつあったが、今後はロシアのウクライナ侵攻の影響がどう出るかが全く分からない。少なくとも良い影響はない。
	悪くなる	電気機械器具製造業（営業担当）	・既に新型コロナウイルスの影響で材料が不足しているなか、ウクライナ情勢が追い討ちとなり、今後はどうなるかが予想できない。
		通信業（管理担当）	・新型コロナウイルスの影響に加え、ロシアによるウクライナ侵攻で経済が悪化する。
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・コロナ禍のため先行きが見通せず、ウクライナ情勢の激化による影響も懸念される。
雇用関連	くやなる良	人材派遣会社（役員）	・ウクライナ情勢にもよるが、まん延防止等重点措置が解除されれば、景気は順調に回復する。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染拡大はピークアウトし、多少は時間が掛かっても、感染第6波は収束に向かう。一方、ロシアのウクライナ侵攻により、世界経済に混乱が生じている。原油や天然ガスなどの原材料価格が高騰し、企業の求人計画にも悪影響が出る可能性がある。現時点で収束の見通しは立っておらず、景気は悪化する懸念がある。
	やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻により、世界的に様々な問題が出ているため、日本もその影響で景気が落ち込んでいくと予想される。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染状況が懸念されるなか、ウクライナ情勢が緊迫し、更に原油や原材料価格が高騰することで、国内産業への影響が心配される。
		職業安定所（職員）	・ロシアのウクライナ侵攻に伴い、エネルギーや金融関連への影響が出るほか、新型コロナウイルスオミクロン株の感染収束も見通しが立っていない。飲食やホテル、旅行業の回復が足止めとなるなど、雇用情勢も一段と厳しい状況になることが予想される。
	な悪るく	学校〔大学〕（就職担当）	・ウクライナ問題に解決の糸口が見つかるかどうかにか懸かっている。将来の見通しが立たない状態であるため、リスクオフの動きが続く。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		20年			21年												22年									
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
現状判断	近畿	27.1	13.5	6.6	16.7	36.6	40.2	42.6	47.4	50.7	42.6	36.0	33.2	43.7	48.5	31.4	34.7	46.2	47.5	35.3	42.7	54.1	57.3	58.7	40.3	39.3
	(全国)	28.4	14.7	9.1	16.7	39.0	41.8	44.1	47.7	52.7	44.2	35.3	31.9	41.7	48.5	39.0	37.8	46.5	48.0	34.9	42.3	55.1	56.8	57.5	37.9	37.7
先行き判断	近畿	24.9	19.2	20.8	39.9	42.0	34.8	43.2	45.7	44.4	33.8	37.6	37.8	51.0	46.0	40.0	50.5	49.7	46.3	44.3	55.4	55.1	51.3	49.4	41.9	44.2
	(全国)	24.6	20.1	19.3	38.2	43.5	35.8	42.8	47.1	46.9	34.7	36.9	40.4	51.0	50.2	43.5	48.0	51.1	47.3	43.5	56.6	56.6	53.2	50.3	42.5	44.4

※季節調整値